

報 告

東京湾内湾の谷津干潟から記録された アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* とギンポ *Pholis nebulosa*

荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・風呂田利夫

Kazuki Arao, Kazuka Motai, Masashi Ohara and Toshio Furota: Records of Ayu, *Plecoglossus altivelis altivelis* and Tidepool Gunnel, *Pholis nebulosa* from Yatsu Tidal Flat in the inner Tokyo Bay

緒 言

ラムサール条約登録湿地である谷津干潟は、東京湾内湾に位置する面積約 40 ha の潟湖である。谷津干潟自然観察センターでは、谷津干潟の魚類相を把握するために 2017 年から調査を開始し、荒尾ほか（2019, 2020, 2021）で合計 13 目 35 科 58 種の魚類を標本・写真に基づいて報告した。荒尾ほか（2021）で魚類相はほぼ把握できたものと考えられたが、谷津干潟から初記録となるアユ *Plecoglossus altivelis altivelis* とギンポ *Pholis nebulosa* を確認したため、標本に基づいて追加記録としてここに報告する。

材料と方法

調査は谷津川へと接続する谷津干潟内の滞筋で行なった（図 1）。2021 年 2 月 16 日と 3 月 16 日に小型定置網を設置し、それぞれ翌日に回収した。3 月 16 日には手網を使用した採集も行った。採集された 2 種は 10 % ホルマリン水溶液で固定し、標本とした。標本は 70 % エタノール水溶液に置換した後、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料（KPM-NI）として登録・保管した。なお、同館における標本番号は、電子台帳上はゼロが付加された 7 桁の数字が使用されているが、ここでは標本番号として本質的な有効数字だけを記した。種の同定、

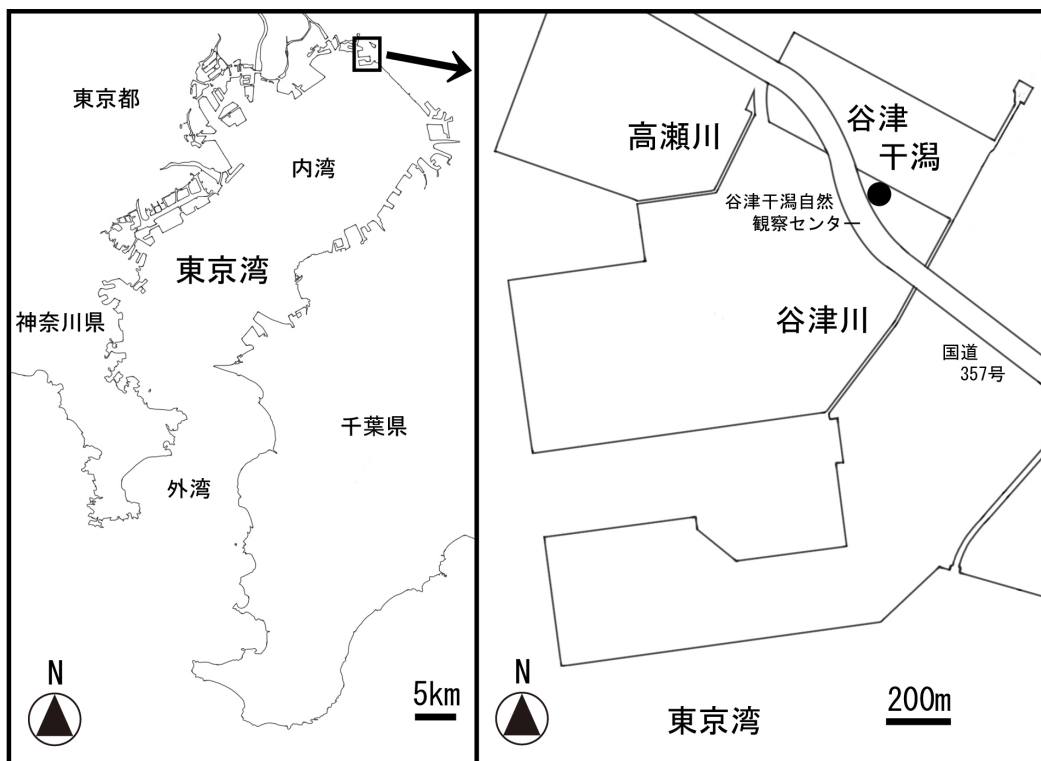


図 1. 調査地点.



図2. 確認した魚類. A: アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*, KPM-NI 66217, 体長 73.2 mm; B: アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*, KPM-NI 66218, 体長 44.2 mm; C: ギンポ *Pholis nebulosa*, KPM-NI 66219, 体長 40.6 mm. 全て荒尾一樹撮影.

配列, 和名, 学名は中坊 (2013) に従った。標準体長 (体長) の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。

結 果

本調査により谷津干潟初記録となる 2 目 2 科 2 種の魚類を確認した。荒尾ほか (2019, 2020, 2021) とあわせると谷津干潟で確認した魚類は合計 14 目 37 科 60 種となった。以下, 2 種について確認状況, 東京湾での出現状況などを記す。

サケ目
Salmoniformes
アユ科
Plecoglossidae

アユ

Plecoglossus altivelis altivelis (Temminck & Schlegel, 1846)

標本: KPM-NI 66217, 1 個体, 体長 73.2 mm, 2021 年 2 月 17 日, 千葉県習志野市, 谷津干潟, 小型定置網, 荒尾一樹・馬渡和華・関根百悠採集 (図 2A); KPM-NI 66218, 1 個体, 体長 44.2 mm, 2021 年 3 月 17 日, 千葉

県習志野市, 谷津干潟, 小型定置網, 荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・関根百悠採集 (図 2B)。

備考: 定置網で 2 月 17 日と 3 月 17 日に 1 個体ずつ採集された。東京湾では秋期から厳冬期にかけて, 体長 13 mm ほどの仔魚が人工海浜や内湾各地の干潟域などに出現し, そこで体長 3-4 cm になるまで滞在して成長する (河野, 2011)。3 月 17 日に採集された個体は体長 44.2 mm であったが, 2 月 17 日に採集された個体は体長 73.2 mm と大きく, 一般に河川へ遡上する大きさであった。

スズキ目
Perciformes

ニシキギンボ科
Pholidae

ギンポ

Pholis nebulosa (Temminck & Schlegel, 1845)

標本: KPM-NI 66219, 1 個体, 体長 40.6 mm, 2021 年 3 月 16 日, 千葉県習志野市, 谷津干潟, 手網, 荒尾一樹採集 (図 2C)。

備考: 手網で転石帯から 1 個体だけ採集された。東京湾全域から出現記録があり, とくに湾奥から湾央にかけ

てよく見られる（河野，2011）。東京湾では同属のタケギンボ *Pholis crassispina* (Temminck & Schlegel, 1845) も出現するが（河野，2011；工藤，2013），標本個体は胸鰭軟条数が 14 であることから本種と同定された。

謝 辞

調査に協力いただいた谷津干潟ユースの関根百悠氏，ギンボの同定と標本の登録および保管でお世話になった神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏，東京湾でのアユの生息状況に関する情報をいただいた神奈川県水産技術センター内水面試験場の工藤孝浩氏，相模湾海洋生物研究会の木村喜芳氏，谷津干潟への立ち入りに便宜を図っていただいた環境省関東地方環境事務所成田自然保護官事務所の皆様に感謝の意を表する。

引用文献

- 荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・風呂田利夫，2020. 東京湾内湾の谷津干潟の魚類相 -II. 神奈川自然誌資料，(41): 61–70.
荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・風呂田利夫，2021. 東京湾内湾の谷津干潟の魚類相 -III. 神奈川自然誌資料，(42): 159–166.
荒尾一樹・馬渡和華・芝原達也・風呂田利夫，2019. 東京湾内湾の谷津干潟の魚類相．神奈川自然誌資料，(40): 41–48.
河野 博監修，2011. 東京湾の魚類．374 pp. 平凡社，東京．
工藤孝浩監修，2013. さかなクンの東京湾生きもの図鑑．175 pp. 講談社，東京．
中坊徹次編，2013. 日本産魚類検索：全種の同定，第三版．i–xlix+1–864, i–xxxii+865–1748 & i–xvi+1749–2428 pp. 東海大学出版会，秦野．

荒尾一樹・馬渡和華：習志野市谷津干潟自然観察センター；大原庄史：NPO 法人生態教育センター；風呂田利夫：東邦大学理学部東京湾生態系研究センター

（受領 2021 年 10 月 31 日；受理 2022 年 1 月 13 日）